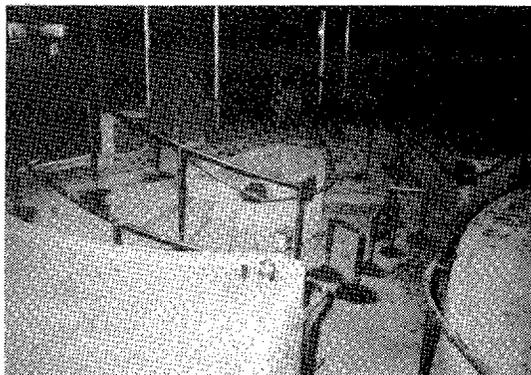


た。右側は、重症患者専用で患者の安全性、疲労度を考慮してエレベートバスを取り入れ、介助者の労力の軽減を図った。

#### 〔おわりに〕

筋ジストロフィー症患者のみでなく他の難病患者にも適応可能な入浴設備について案を提示したが、現在建設途上で、(写真1. 2.)、実際の活用については、今後継続して検討してゆきたい。

写真2 浴槽を側面よりみる



## 48 改良浴室に関する報告

国立療養所兵庫中央病院

荒木 エリ子 杭原 節子

#### 〔目 的〕

最近浴室の改造を経験したので、その際留意した点、および新浴室を使用して実際に得られた成果を述べ、また新浴室でさらに改良すべき点を検討して、今後のより良き入浴看護のための参考に供したい。

#### 〔方 法〕

私達は、患者が安全に気持ちよく入浴できること、介助者の負担が軽減され能率的に動けることなどの点に留意し、図1の浴場を図2のように改良した。

具体的に改良した点を以下に述べると、

1. 脱衣→洗い場→浴槽→着衣、と患者が一方向にのみ混雑しないように、脱衣場と着衣場を区別した。
2. 浴槽内に入らないで介助できるように、浴槽と洗い台の形を工夫し、また外回りに段差を設けて介助の高さを調整した。

3. 浴槽からの出口は、患者が上がりやすいようにスロープにした。
4. 坐位保持不能の患者が臥位で洗える場所を作った。
5. ストレッチャーのまま入浴できるように、脱着衣場中央および浴場側方に通路を設けた。  
脱着衣場中央の通路を使用しない時は、板敷をはめ込んで広く平面として使えるようにした。

〔結果と考察：改良の結果〕

1. 介助者の動線が短くなり、混雑が少なくなり能率が上がった。
2. 患者の転倒や、介助者の洗い場での転倒の危険が減少した。
3. ボディメカニクスが考慮された結果、介助者の腰部に加わる負担が軽減された。

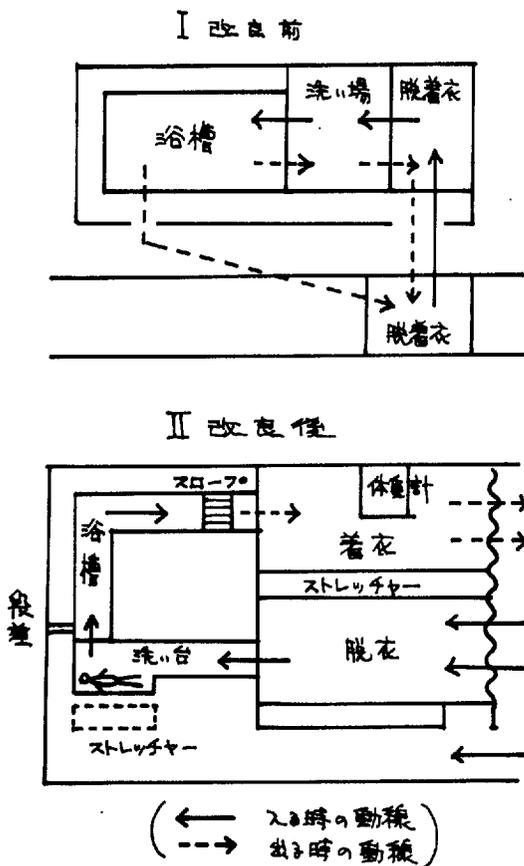
写真 1. 2.

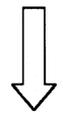
今後さらに改良すべき点としては、

1. 浴室への出入口が狭く、患者を抱きかかえた時無理な姿勢をとらなければならないので、広くすること。
2. 浴室内の床の段差について再考の必要がある。(介助者の体位を考え、浴槽外回りに段差を設けたが介助者の移動に障害となっている)
3. 洗い水が浴槽内に入らないようにすること。(洗い台と浴槽の上面が同じ高さでつながっているため)
4. 体重計を床にはめ込み式とし、患者がいざって乗れるようにすること。
5. 入浴介助時に使用するはき物、洗い場の敷き物、臥床者用の枕などについて工夫すること。

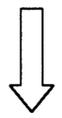
などがあげられている。これらの点につ

いては、現在施設側と交渉中のものもあり、漸次改善してゆきたいと考えている。





## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔目的〕

最近浴室の改造を経験したので、その際留意した点、および新浴室を使用して実際に得られた成果を述べ、また新浴室でさらに改良すべき点を検討して、今後のより良き入浴看護のための参考に供したい。